



令和3年度

# 11月人権一口講座



M I N A M A T A

(みなまた)

映画「ミナマタ」を見に行きました。主人公ジョニーデップが写真家ユージン・スミスに扮し、1970年代当時の水俣を舞台にした映画です。「入浴する智子と母」写真撮影をするシーン。ユージン氏が写真誌「ライフ」で、水俣病を世界に知らしめた写真で、映画のシーンでも最も心を揺さぶられる場面でした。

水俣病について、私は以前、語り部であった杉本栄子さんのお話を聞いたことがあります。「水俣の漁師の網元の家に生まれ、母親が水俣病第1号の患者として世間に知られた方です。当時、この病は原因不明とされたために、伝染病などと勘違いされ、いわれなき差別を受けながら家族ごと苦しみぬいて生きられた女性です。それまで強い絆で結ばれていたはずの集落から村八分的な扱いを受け、時には肉親縁者から辛い仕打ちを受けたこともあったそうです。

そんな中、杉本さんのお父さんは『それでも人を恨んじやいかん、仕返しなどはしてはならぬ、人間として生き抜け』と教えられたそうです。教えを守り生きてこられた杉本さんにも感心しますが、諭されたお父さんは本当にすごいです。

コロナ感染症でも、特に当初は感染者に対して誹謗中傷などがひどかったように思います。以前、私が水俣の旅館に泊まった時、「海にタツノオトシゴいるよ」と聞いて海に潜ってみると、本当にタツノオトシゴが泳いでいる！というか立っているというか、眼前で見ることが出来て感激したことがあります。宿泊した旅館の料理も美味しかった！このコロナ感染症が落ち着いたら、また水俣に行ってみようと思っています。その折には、「つなぎ美術館」で映画と同名の写真展が開催されており未公開だった写真も含め展示されていると聞いていますので、改めて水俣病への思いを深める機会にしようと思いい、立ち寄りたいです。

最後に、「入浴する智子と母」の写真はユージン氏の妻アイリーンさんによって1998年3月「封印」された経緯があるそうです。その「封印」の決断は「もう休ませてあげたい」という思いからだだったと。「智子ちゃんに仕事をさせて利用している感じです。自分が行動する代わりにあの写真が利用されている」と辛い心の内をインタビューに答えられていました。長い時間が経ちそして今、そのアイリーンさんが完成版のこの「MINAMATA」の映画を見て、「この写真を大切に扱いたい」と「封印」を解かれたそうです。

(熊本市ふれあい文化センター広報紙「かけはし」十一月号より)



短メッセージ

「おにいちゃん。」とよんでくれる  
ぼくのいもうと かわいいな だーいすき

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 長嶺小学校 1年 安達 千真さんの作品より